佛蘭西現代美術展覽會



作品寫眞
作品目錄
作家小傳

EXPOSITION D'ART
FRANÇAIS CONTEMPORAIN au JAPON

1925

國民美術協會主催

佛蘭西現代美術展覽會



作品寫眞・作家小傳・作品目錄

國民美術協會發行

緒言

エッチ・デルスニス氏が佛蘭西現代の繪畫、彫刻、工藝品を併せて我が國に將來すること玆に四年、本協會主催の下に佛蘭西現代美術展覽會を開く事も亦第三回となつた。

今年の將來品は殊に大規模で、繪畫七百點、彫刻六十點、工藝品壹千點に及んでゐる。之れが全部を會場たる日本美術協會列品館に陳列する事は到底不可能である。よつて本會は、其の中、繪畫の主要なる大部分と、彫刻の殆んど全部と、工藝品の一部とを以つて九月二日から二十三日まで開催する事とした。勿論今年の將來品の重要なものは展觀せらるゝのである。其の中には繪畫ではギュスターヴ・モローやジャン・ポール・ローランスやラフアヱル・コランやカロリユス・デユランやブグローやシヤプランやダニアン・ブウヴレーやルノアールやラフアエリやルフエーヴルなどの古典的のものから、現代のベナール、アマン・ヂヤン、コツテ、アツスラン、ルバスク、デスパニア、ラプラード、マンギヤン、ロベール、オツトマン、フランドラン、マルヴアル、ヴアン・ドンゲン、アニコツトなどのものがあり、彫刻ではミユゼ・ロダンの後庭から其儘もつて來た「歩む人」とブールデルの「弩をひくヘラクレス」とベルナールの浮彫「舞踊」の三大作の外、ダルーやバルトロメーやドガやブユガツテイやポンポンやオルロフ夫人の作などがあり、過去三回の展覽會に比して優るとも決して劣らない充實した内容を持つてゐる。唯開催さるべくして延期された伊太利美術展覽會の爲め會

期が僅々二十二日に過ぎないのは遺憾である。

猶此のカタログには、今回の將來品全部を收めてあるから、前記の如く會場の都合で陳列されないものゝある事は豫め御斷して置く。それらのものは、大阪に於いて、又は日佛藝術社に於いて、其他適宜の場所で展觀される機會があるこ思ふ。

終に此のカタログに收めた原色版及び網目版の大多數は巴里の製版に係り、書題の飜譯及び小傳の執筆には荒城季夫氏を煩した、玆に記して同氏の勞を謝して置く。

大正十四年八月

國民美術協會展覽會委員

寫眞版目錄

勇士と花	ルドン
夏の日曜日	ロベール
デッサン	ロダン
デッサン	同
風景	シスレー
風景	同
夢みる人	ロートレック
東洋への初旅	ヴァン・ドンゲン
浴女	バルトロメー
アナトール・フランス胸像	ブールデル
サッフォー	同
風琴を持てる女	オルロフ
背像	同
カレーの市民	ロダン
歩む人	同



禮拝に集るブルトンヌ　　コツテ



裸女　アマン・ヂヤン



裸女　　アマン・ヂャン



レダ　ベナール



習作　　ベナール



犬と少女　　シヤリエー



乙女と愛の使　　シャプラン



景　　コッテ



公園の女　　　　コッテ

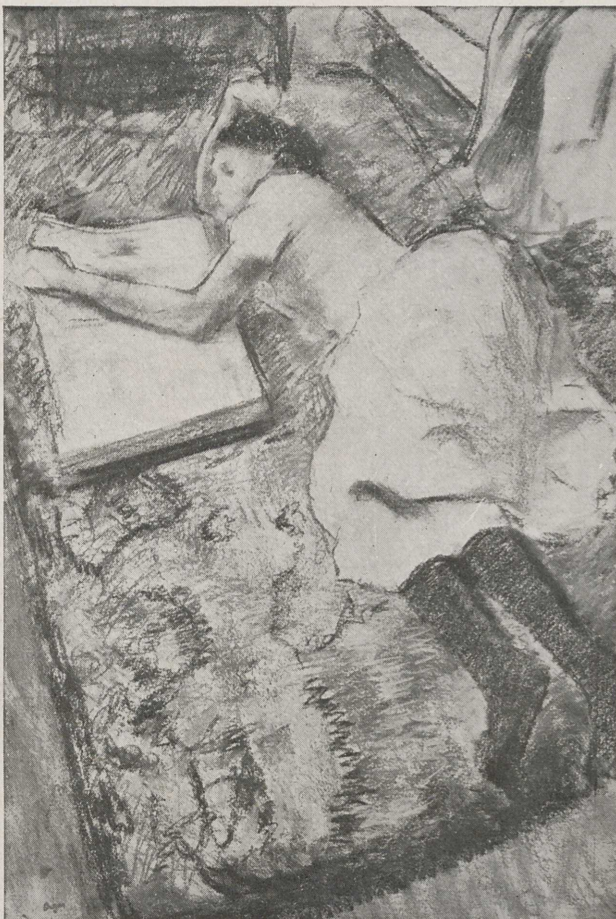


或る夫人の肖像

ダニアン・ブウヴレー



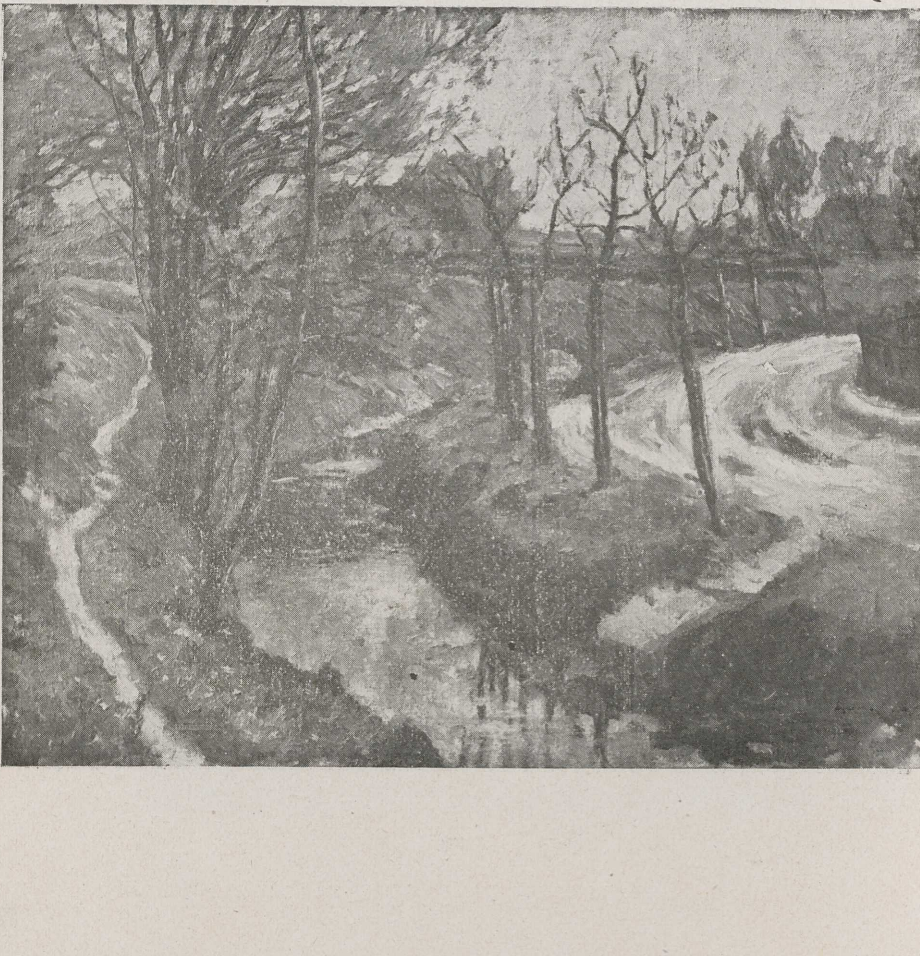
踊子



安樂椅子に横はれる女　ドガ



肖像　ドガ



風景　ゴーギャン



マルセイユの港　　ツエルポー



パイプを持てる女　　ゲラン



氷辷り　　アニコツト



モデルの姿勢　　ラプラード



墳墓のフイリツプ二世　　ローランス



浴み　　　　ルバスク



三人裸女　　グレーズ



化粧せる三人の踊子　　ルグラン



風景　マルケー



人物裝飾畫　　　　マクサンス



クレオパトラ　　ギユスターブ・モロー



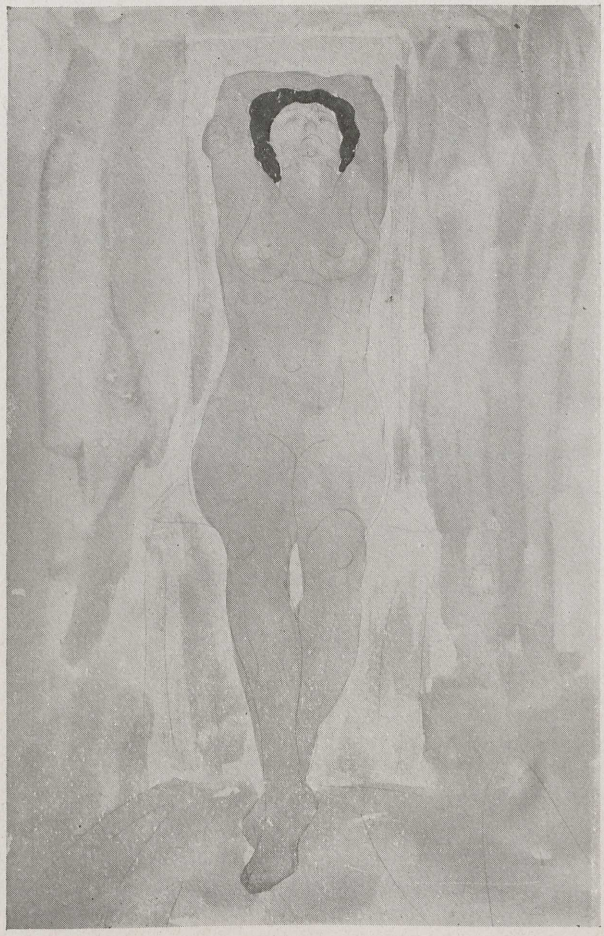
モディリアニ　「赤豆」



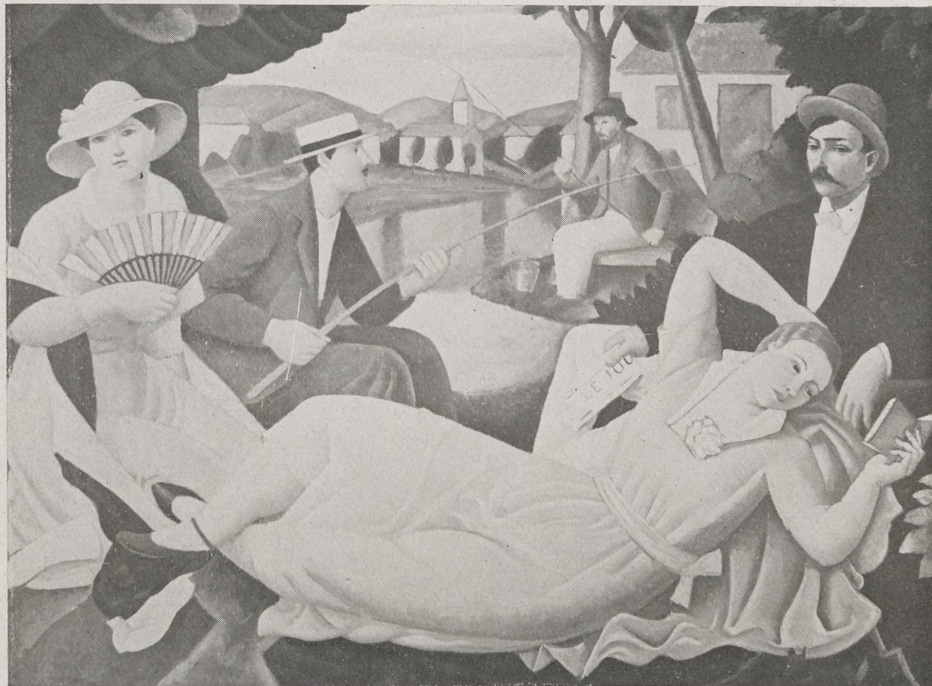
騎士と花　ルドン



デツサン　　ロダン



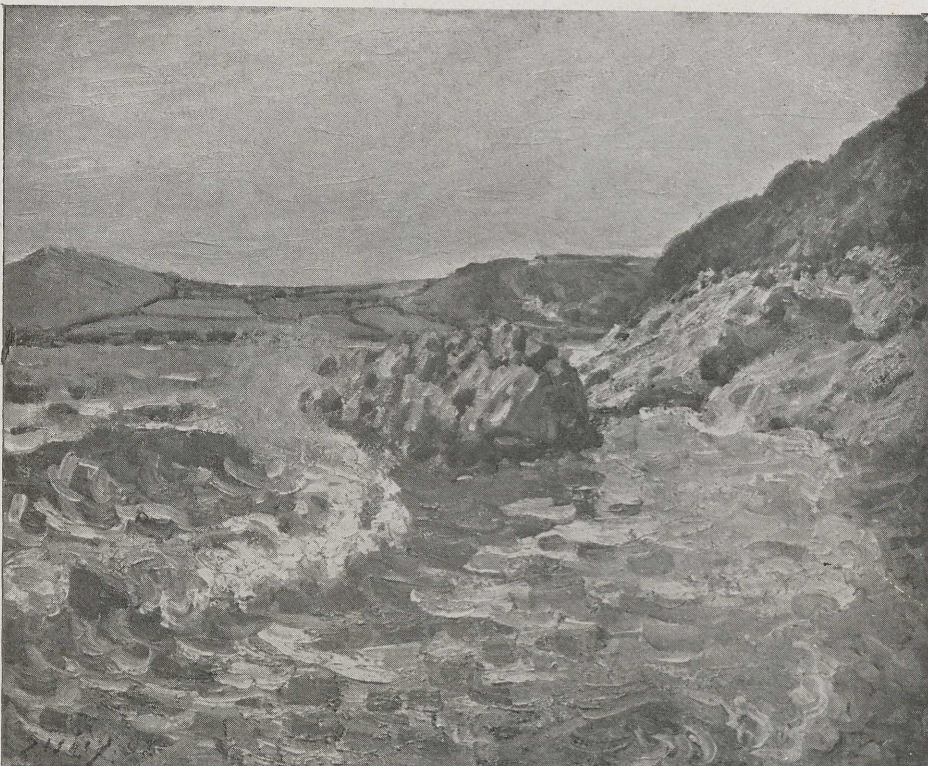
デッサン　　ロダン



夏の日曜日　ロベール



風景　シスレー



風景　シスレー



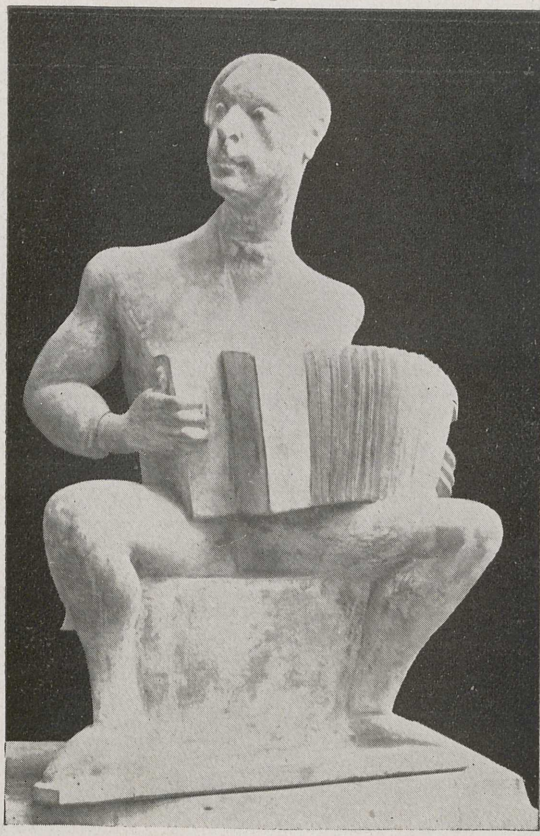
夢みる人　　　　　　　　　　ロートレツク



東洋への初旅　　ヴァン・ドンゲン



サフツフオー　　ブールデル



風琴を持てる男　　オルロフ



肖像　　オルロフ



カレーの市民　　ロダン



歩む人　　ロダン

作品目録

繪畫

六八　風　　景
六九　白衣の女
七〇　白き長椅子の女
七一　立てる女　　素描
七二　横はれる女　素描
七三　裸　　體
七四　まどろむ少女

カイユボツト

七五　雪　　景

ル・カミユ

七六　果 樹 園

カロリユス・デユラン

七七　マドレイヌの胸像
七八　女
七九　裸　　女
八〇　立てる若き女

八一　風景を配せる浴女
八二　ルーベンスの摸寫

シヤバ

八三　浴　　女

シヤリヱ

八四　犬と少女
八五　黒き敷物と女
八六　小兒の像
八七　紅の家具ある室
八八　女と子供
八九　雪 の 道

シヤマイヤール

九〇　樹　　木

シヤプラン

九一　愛 の 使
九二　乙女と愛の使　其一

一一九　肖　像
一二〇　胸　像　習作
一二一　座せる若き女
一二二　若き娘の顔
一二三　ダフニス　其一
一二四　ダフニス　其二
一二五　ダフニスとクロヱ
一二六　裸　體　習作

コーマン

一二七　ヴィナスへの捧物

コッテ

一二八　海　景
一二九　公園の女
一三〇　禮拜に集るブルトンヌ

クウロー

一三一　羊

クールトア

一三二　立　琴

クロッス

一三三　裸　體

ダントン

一三四　ロアール河
一三五　ヴィエンヌ河岸
一三六　夏のロアール川
一三七　サン・ゼルマンのヴィエンヌ川
一三八　ロアール河岸
一三九　ブリアールの堀割

ダニアン・ブーヴレヱ

一四〇　或る夫人の肖像

ドービニー

一四一　水　門

ドーシヱ

デュフレノア

一六三　ドリアの宮殿・

デュプラ

一六四　ノートルダム

デュプレ

一六五　風　景

デュレンヌ

一六六　少　年

十八世紀のある畫派

一六七　學　園

十九世紀のある畫派

一六八　女と愛の使

和蘭畫派

一六九　馬

十六世紀のヴェニシアン畫派

一七〇　聖母と幼兒

エデルマン

一七一　カルタの仲間　水彩

一七二　車中所見

一七三　朝

一七四　カフヱの仲間

一七五　カフヱにて　水彩

一七六　カフヱの女　水彩

一七七　百日草

一七八　金蓮花

一七九　花賣り　エッチング

一八〇　座せる裸女　同

一八一　化　粧　同

一八二　カフヱの三重奏　同

一八三　椅子によりて　同

一八四　肱つく女　同

エベール

二一二 裸 體

フランドラン

二一三 猫と花
二一四 赤葡萄の木
二一五 ヱッフェル塔
二一六 夏景色
二一七 室をのぞく少女
二一八 寓意人物
二一九 グルノーブル風景
二二〇 プロヴァンス風景
二二一 靜 物
二二二 ベコニヤ
二二三 市の日
二二四 赤き石竹

フロールダヴイツド

二二五 子供 其一 パステル
二二六 同 其二 同
二二七 少 女 同

藤田嗣治

二二八 座れる裸女
二二九 まどろむ女
二三〇 横はれる裸女

フウルニヱ

二三一 古代舞踊

フリヱス

二三二 大 樹
二三三 月 光
二三四 秋の風景

フロマンタン

二三五 アラビヤ人 習作

ガボリオ

二三六 桃の實

ガレリ

二三七 海邊の女

ゴオギヤン

二三八 タヒチ

二三九 風景

二四〇 浴後 素描

二四一 小娘 同

二四二 男と女 同

二四三 ペン畫

二四四 アダムとイヴ 木彫

二四五 草乾す女

ギヤヴアルニ

二四六 役者

ジエルボー

二四七 サナリー風景 其一

二四八 同 其二

二四九 サン・ジヤン・ド・リユツ風景

二五〇 マルセイユの港

ジエルヴエツクス

二五一 バツカントと戯るゝ半獸神

ジムミー

二五二 浴女

二五三 まどろむ女

ジリウ

二五四 敎會堂

二五五 裸體習作

グレーズ

二五六 三人裸婦

ゴボ

二五七 浴女

二五八 馬

二五九 アルジヤントの市場 水彩

二六〇　アンジュウの宿屋　同
二六一　風　景　同
二六二　岩

ゴスラン

二六三　河に近き會堂

グラスミック

二六四　室内の女
二六五　樹下浴女
二六六　ムーラン・ド・ラ・ギャレット
二六七　浴衣の女
二六八　アトリエの一隅
二六九　座れる女
二七〇　船上裸婦
二七一　縫物する女
二七二　書を讀む女
二七三　市場の歸り

二七四　アトリエにて
二七五　茶碗とオレンヂ
二七六　モンマルトルにて

ゲラン

二七七　パイプを持てる女
二七八　女
二七九　顔

ギユイ

二八〇　聖母と幼兒

アニコット

二八一　少年と少女
二八二　道　其一
二八三　絨毬の下繪
二八四　道　其二
二八五　コリウールにて
二八六　風

アルピニー

イルシユ

イス

オーデ

ユーベール・ロベール

ジヤンソー

ジヤニオー

ヨンキンド

三一二　海　景

ジユルデン

三一三　海　邊
三一四　紅の空
三一五　農　家
三一六　赤　子
三一七　安樂椅子
三一八　浴　女
三一九　花咲く木々
三二〇　庭にて
三二一　和蘭風景
三二二　アトリエ
三二三　庭

クナウス

三二四　チユイルリーのそゞろあるき

コロシヤンスキー

三二五　羊　群　其一
三二六　同　其二
三二七　同　其三
三二八　同　其四
三二九　同　其五

クリスチヤン

三三〇　カフヱの女　其一
三三一　同　其二
三三二　同　其三

ラプラード

三三三　舟
三三四　小供と花
三三五　露　臺
三三六　ノートルダムの怪獸
三三七　チユイルリー公園

三三八 モデルの姿勢

アルベール・ローランス

三三九 イヴ

ジャン・ポール・ローランス

三四〇 大樹

三四一 コルベール禮讃 エスキース

三四二 死

三四三 墳墓のフイリツプ二世

三四四 スペイン風景

三四五 ノルマン人の顔

三四六 教會堂の柱

三四七 裸體習作 素描

三四八 村の橋

三四九 フローレンスの貴族

三五〇 赤き石竹

三五一 壁畫下繪 其一

三五二 壁畫下繪 其二

三五三 基督と寺を賣る者

三五四 コルベールの下圖

三五五 聖書の下圖

三五六 黒奴習作

セバスチヤン・ローラン

三五七 ラフアエル・コランの庭

ルバスク

三五八 ハンモツクの女

三五九 池畔の子供

三六〇 浴み

三六一 浴女

ルブール

三六二 みづゑ

三六三 風景 水彩

ルフエーブル

三六四　傷める愛
三六五　浴　女
三六六　孤　獨
三六七　裸　女

ルグラン

三六八　茶碗を持てる童
三六九　花
三七〇　笑へる女
三七一　女友達
三七二　ブロンドの女
三七三　化粧する三人の踊子
三七四　樂屋口
三七五　裸　婦
三七六　化粧室
三七七　美しき夕暮

ル・メイユール

三七八　船
三七九　風　景

レピンヌ

三八〇　巴里の荷揚場

ルロール

三八一　裸　女

ルロワ

三八二　東洋風の女

ロート

三八三　四部合奏

ロピスギッシユ

三八四　菊　花

リユース

三八五　冬の景
三八六　クワルチエー・ド・ラルマ　其一
三八七　同　其二

ルイギニー

三八八　風　景

リユールカサ

三八九　靜　物

マドリーヌ

三九〇　船

マイヨール

三九一　肖　像

マネー

三九二　扇

三九三　女の顏　エスキース

マンギヤン

三九四　港

三九五　風　景

三九六　肖　像

三九七　靜　物

三九八　裸　婦　其一

三九九　窓際の果物

四〇〇　支那の箱

四〇一　裸　婦　其二

四〇二　花

四〇三　窓

四〇四　水　浴

四〇五　小　舟

四〇六　樹　木

四〇七　樹下人物

四〇八　露　臺

四〇九　赤き衣

四一〇　大　樹

四一一　横はれる女

四一二　裸　婦　其三

四一三　綠色の衣

四一四　座せる裸婦
四一五　室　内
四一六　花と果實
四一七　花と鉢

マルシャン

四一八　靜　物

マロニエ

四一九　夜の河

マルケー

四二〇　風　景

マルタン。フエリエール

四二一　朝の村
四二二　花
四二三　花　臺

マルチネ

四二四　花

マルヴアル夫人

四二五　浴　女
四二六　青きコルセツト
四二七　アネモネ
四二八　花
四二九　おしやべり
四三〇　浮氣者
四三一　風　景
四三二　夏

マクサンス

四三三　祈　り
四三四　人　物　裝飾畫

メルシー

四三五　裸の女

メルソン

四三六　裸體習作　共一

四三七　同　　　其二
四三八　こども

メトラング

四三九　農婦

メッツアンジエー

四四〇　風景

モロー

四四一　オルフエの首を持てるトラスの娘
四四二　クレオパトラ
四四三　聖セバスチヤン
四四四　ヤコブと天使　　**木版**

ミレー

四四五　牛
四四六　乳酪を造る女
四四七　落穂拾ひ
四四八　耡く者

四四九　羊飼ひ
四五〇　桶をあける女
四五一　座れる羊飼ひ
四五二　憩へる耡手
四五三　肖像
四五四　戸口の母と子
四五五　桶をあける女
四五六　野良への出立
四五七　憩へる收穫夫
四五八　牧羊婦

ミロ

四五九　シヤンゼリゼエ通り
四六〇　ルーヴル荷揚場
四六一　ラ・マドレイヌ
四六二　リユ・ド・ラ・ペエ
四六三　シヤトレエのセイヌ河

四八九 ジロンドの荷揚場

ピヱ

四九〇 洗濯婦

プチジヤン

四九一 ラ・ロシエル

ピカビヤ

四九二 モレー風景 其一

四九三 洪水

四九四 モレー風景 其二

四九五 コムポジシヨン 其一 木版

四九六 同 其二 同

四九七 同 其三 同

四九八 同 其四 同

四九九 西班牙の女 水彩

ピオー

五〇〇 風景

ピサロ

五〇一 種蒔き

五〇二 草乾す女

五〇三 老ひたる農夫

五〇四 籠を持てる女

五〇五 風景

五〇六 宿無者

五〇七 ブルターニュの市場 グワツシユ

プレヴオ・ヴアレリ

五〇八 羊群

五〇九 冬の太陽

ピユヴイス・ド・シヤヴアンヌ

五一〇 エッチング

五一一 男の裸體 素描

ラフアエリー

五一二 サンドニー風景

五一三　大通り

ラグノー

五一四　夕べ

五一五　雪の道

五一六　林の道

五一七　林の中

五一八　牛

五一九　沼と牛

五二〇　曳船の道

ルドン

五二一　サビーヌの誘拐

五二二　神話の馬

五二三　勇士ご花

五二四　蘆花を持てる女

五二五　地獄のオルフエ

ルヌフエール

五二六　セーヴルの舟つき場

五二七　ノートルダム

五二八　セーヴルのセイヌ川

五二九　エツフエル塔

ルノアール

五三〇　若き娘

五三一　立てる浴女　素描

レオポルド・ロベール

五三二　牛と闘ふ男

テオフイル・ロベール

五三三　池畔の浴女

五三四　浴後　其一

五三五　泉と女

五三六　横はれる女

五三七　浴女　其二

五三八　脱衣の娘

五三九　カヴアレールの入江
五四〇　モールの農家
五四一　首飾りを持てる女
五四二　花と果實
五四三　田園情趣　其一
五四四　カヴアレールの家
五四五　田園情趣　其二
五四六　田園情趣　其三
五四七　風　景
五四八　つれづれ　パステル
五四九　女友達　同
五五〇　背向の浴女
五五一　背向の裸女
五五二　水のほとり
五五三　讀　書
五五四　背向の人物

五五五　赤きボンネット
五五六　座れる人物
五五七　談　笑
五五八　憩　ひ
五五九　座れる女
五六〇　果　實
五六一　赤きボンネットの娘
五六二　二人の女友達
五六三　扇を持てる浴女
五六四　扇を持てる娘
五六五　物思ひ
五六六　まどろむ女
五六七　浴　み
五六八　ス・ザンヌと老人達
五六九　モールにて
五七〇　松　樹

五七一　大　　樹
五七二　モールの家
五七三　風　　景
五七四　ミデイ風景
五七五　大　　松
五七六　風　　景
五七七　家
五七八　浴　　女
五七九　樹　　下
五八〇　夏
五八一　生の歡喜　　パステル
五八二　風　　景
五八三　浴　　女
五八四　サナリー風景
五八五　バンドール
五八六　休　　憩

五八七　マドレイヌ　　其一
五八八　カヴアレール風景　　其二
五八九　同　　其三
五九〇　同　　其四
五九一　同　　其五
五九二　同

ロダン

五九三　座れる浴女
五九四　横はれる裸婦
五九五　座れる女
五九六　立てる裸女
五九七　カンボヂヤの踊子　　習作
五九八　女の習作
五九九　裸　　女　　其一
六〇〇　同　　其二
六〇一　同　　其三

六〇二 同 其四

六〇三 同 其五

ロ ド

六〇四 公園にて 水彩

六〇五 旅藝人の車

六〇六 冬の野

六〇七 大樹

六〇八 キユー公園の池

ロール

六〇九 遊べる童と風景

ルツセル

六一〇 風景 其一 パステル

一六一一 同 其二 同

六一二 同 其三 同

リツセルベルグ

六一三 噴泉盤

六一四 裸女 習作 其一

六一五 同 同 其二

サヴリユー

六一六 雪景

六一七 風景

六一八 横はれる裸婦

六一九 座れる裸婦

六二〇 果實

六二一 風景 水彩

セム

六二二 踊子

セリユジエー

六二三 半身像 習作

ル・シダネール

六二四 夏の朝の港

シニヨーレ

六二五　小　舟

シモン

六二六　女の胸像

シスレー

六二七　風　景

六二八　同

六二九　望　樓

六三〇　巴里の荷揚場

タヌウ

六三一　戸口の女

トーロー

六三二　白　鳥　木版

六三三　かもめ　同

トベーン

六三四　アネモネ

六三五　赤大根

六三六　ダリヤ

六三七　黄色の紐ある盃

ロートレツク

六三八　夢みる人

トルイユベール

六三九　風　景　其一

六四〇　同　其二

六四一　同　其三

ヴライヱ・ムウテヱ

六四二　室　内

六四三　縫物する女

ヴアロツトン

六四四　樹　下

六四五　樅

ヴアン・ドンゲン

彫刻

バフイエー

一　銀瓶

バルトロメー

二　嘆く女　大理石
三　浴女　ブロンズ
四　若き娘　同

ベルナール

五　ダンス　石膏
六　バツカント　同
七　愛　大理石

ブールデル

八　ヘラクレス　ブロンズ
九　アナトール・フランス肖像　同
一〇　戰へるアポロン　同
一一　サツフオー　同

ブユガツテイ

一二　二頭の豹　ブロンズ
一三　ペリカン鳥　同
一四　牝豹　同
一五　ジヤガー　同
一六　麒麟　同
一七　駝鳥　同

ダルウ

一八　徒渉　ブロンズ
一九　縫物する女　同
二〇　牧神の像　同

二一　石を投ずる半人半馬　ブロンズ
二二　寒むがり者　同

ドガ

二三　トルソー　ブロンズ

デユーラーの摸寫

二四　イヴ　同

フイス・マツソオ

二五　インキ壺　同

ガルガロー

二六　佐藤氏の肖像　鉛
二七　犬　同
二八　眠れる女　ブロンズ

ギノー

二九　鏡に向へる女　同

マドヴイツグ

三〇　物語　同

三一　母性　ブロンズ
三二　踊子　同
三三　散歩　同
三四　手紙　同
三五　小兒の顔　同
三六　兎　同
三七　浴後　同

パブロ・マネス

三八　風琴を持てる男　ブロンズ
三九　裸體　同
四〇　ギターを奏でる男　同

ミケランジエロ摸寫

四一　顔　同

オクトーブル

四二　めざめ　大理石

オルロフ

四三　吾息子　石

四四　座せる女　ブロンズ

四五　ギターを持てる女　同

四六　立てる女　同

四七　風琴を持てる男　セメント

四八　肖像　同

オテロ

四九　小さき顔　テラコツタ

ポンポン

五〇　小さき孔雀

ロダン

五一　カレーの市民　大理石

五二　波　同

五三　バルザツクの顔　ブロンズ

五四　バルザツクの胸像　同

五五　バルザツクの顔　粘土

五六　カレーの市民　同

五七　歩む人　ブロンズ

五八　青銅時代　同

五九　ボードレールの顔　同

作家小傳

繪畫

セリーヌ・アマンジヤン

一八六〇年生。チュイルリーのサロン創設者にして其副會長たり。灰色を基調とせる甘美の裝飾的畫風を有す。其名夙に我邦にも知らる。其の作リュクサンブール美術館、アールデコラチーフのミューゼ等に在り。

モーリス・アッスラン

一八八二年オルレアン生。サロン、ドートンヌ會員。油畫水畫を共に能くし、人物、風景何れも優秀なる作品多し。現代中堅作家なり。

アルベール・ベナール

一八四九年巴里に生る。畫風は最も典雅にして、傳統を重んじ、裝飾的なり。現代老大家として盛名あり。目下巴里美術學校長にして、チュイルリーのサロン創設者たり。其作はリュクサンブール、プチパレエ、ローマ、フロレンス等の畫堂にあり。

ザビエー・プリカール

アルチスト・フランセヱのサロンに於て受賞、一九二二年にはエンネル賞を受く。穩健着實なる作風は一方に於て認めらる。

ウイリアム・ブーグロー

一八二五——一九〇五。ラ、ロシエルに生る。人物畫を待意とする十九世紀の大家にして、作風穩健なり。ポール・シヤバは其門より出づ。

ユージエヌ・カリエール

一八四九年巴里に生れ。一九〇六年歿す。夢幻的色彩を以て婦人像、小兒像を描き、其所に柔かなる詩味を表現す。十九世紀に於ける最大の、且つ特色ある大家なり。

ポール・シヤバ

一八六九年ナントに生る。美麗なる婦人畫を描きて名あり。

シヤル丶・シヤブラン

一八二五——一八九一。十八世紀趣味の畫風にて、常に寢室及化粧室を其主題とせり。其作は主として

リユクサンブール畫廊に所藏せらる。

ギユスターヴ・カイユボツト

一八四八——一八九四。印象派の畫家なり。

カロリユス・デユラン

一八三八年リールに生る。クールベエの門より出で最初は寫實を事とせしも、後には稍俗味を帶びるに

至れり、一八六六年其大作「暗殺」により一躍大家の列に入る。

ルイ・シャルロー

サロン、ドートンヌ會員。明快なる色調を以て田園風物、肖像等を描く。其の作リュクサンブール、グルノーブル等の諸畫堂に陳列せらる。

ジャン・バプチスト・コロー

一七九六――一八七五。十八世紀後半より十九世紀半頃にかけての巨匠。その夢幻的にして詩味溢るゝばかりなる風景畫は正に不朽の價値を有し、人物を扱へる物にも亦名品尠からず。其作は世界各國の諸美術館に普く所藏せらる。

ラファエル・コラン

一八五〇年生一九一〇年死去。カバネルの門より出で、一九〇二年マンブル、ド、ランスチチューとなる。典雅にして詩味豊かなる其作風眞に愛すべし。我國畫家にして其教を乞ひたる者多く、從つて其作品日本に夥し。其の作リクサンブール美術館始め諸畫堂に在り。

シヤル、・コツテ

一八六三年生る。シヤヴアンヌの門より出づ。好んで傳統と宗教と風景を以て名あるブルターニュの風物を描く、現代巨匠の一人なり。其の作リュクサンブール美術館の外、佛蘭西及諸外國の美術館に陳列

せらる。

アンリー・エドモン・クロッス

一八五六――一九一〇。新印象派畫家。アンデパンダンのサロンの常連なり。裸女、風景等を寫す。

ダニヤン・ブーヴレヱ

一八五二年生る。ソシエテ、デ、ザルチスト、フランセヱ會員。穩健なる筆致を以て人物、風景を描く老大家なり。其作リュクサンブール及リオン畫堂に陳列さる。

シヤル、・ドビニー

一八一七年生れ一八七八年死す。風景畫大家。其作ルーヴルを始めとして、ランス、ストツクホルム、ロンドン等諸市の畫廊に在り。

アンドレ・ドーシヱ

一八七〇年生る。ソシエテ、ナショナール會員。主としてブルターニュ地方の風景を描く。

エドガー・ドガ

一八三四年巴里に生れ一九一七年物故す。印象派の巨頭にして同時に最も偉大なる寫實家の一人なり。踊り子、浴女等を多く題材とす。油繪、素描共に珍重さる。其の作ルーヴル、リュクサンブールを始め世界各國の畫堂に在り。

ユージエヌ・ドラクロア

一七九九——一八六三。ロマンチック派の巨頭。多く物語風の物を描き、色彩に重きを置けり。其一代の作は主としてルーヴルに在り。

エリー・ドロネー

一八二八——一八九一。マンブル・ド・ランスチチユーとなれり。其作ルーヴル、リュクサンブール、ナント、ルアン等の諸畫堂に陳列さる。

モーリス・ドニー

サロン、ドートンヌ會員。宗教的畫題を主として取扱ひ、獨自の手法を以て象徴的裝飾畫を描く。現代大家の一人にして其作品はリュクサンブール、ガンの畫廊に陳列さる。昨年日本に將來せられたる大作「アルミードの園」は現に三共ビル六階エンプレス・ギヤラリーに在り。

アンドレ・ドラン

一八八〇年生。アンデパンダン出品。現代新傾向の中堅作家として聲名あり。

ジヨルジユ・デスパニア

一八六八年巴里生。サロン、ドートンヌ創立者にして、アンデパンダンにも出品あり、チユイルリーのサロンにも參加す。人物。靜物を得意とし、穩健なる筆觸を以て吾人の心を惹く名作多し。現代大家と

して盛名あり。其の作リユクサンブール美術館に陳列せらる。

デイアズ

一八〇七年ボルドー市に生れ、一八七六年マントンにて死去。ミレーと共にバルビゾン派に屬し、風景、牧神等を描けり。

ジユール・デユプレー

一八一一――一八八九。風景畫の大家。其主なる作はルーヴル、アムステルダム、ヘーグ、ストツクホルム等の諸畫廊に在り。

ファンタン・ラツール

一八三六――一九〇四。優美なる筆觸を以て人物、靜物等を寫す。

ジユール・フランドラン

ギユスターヴ門下。サロン、ドートンヌ並にソシエテ、ナショナール會員。チユイルリーのサロンの委員となる。獨特の技巧を以て風景、小兒、人形等を好んで描けり。現代大家として聲價あり。其の作リユクサンブール、グルノーブル等の畫堂に在り。

オツトン・フリエス

アーブルに生る。初めゴーギヤンに出發し、セザンヌの影響を受け、遂に自己獨特の境地に到達す。新

進作家中の急先鋒として有名なり。

ユージエヌ・フロマンタン

一八二〇——一八七六。ラ、ロシエルに生る。寫實を重んじ、東洋風の作を爲せり。

ポール・ゴオギヤン

一八四八——一九〇三。後期印象派の先驅者。ブルターニュのポンタヴエンとタイチ島と兩地に於て製作す。近代文明を悪み、常に原始的感情を貴べり。其素朴なる作品は今日大に愛賞せらる。

ヴアンサン・ヴアン・ゴオグ

一八五三年和蘭に生れ、一八九〇年狂死す。ゴオギヤンと共に後期印象派の開祖と目さる。其天才的にして、强烈なる作風は、現在非常に尊重さる。

シヤルヽ・ゲラン

一八七五年誕生。人物、靜物の寫實的製作のあると同時に、ロコヽ風に立體を加味せる空想的の作をも發表す。サロン、ドートンヌ會員。其作リユクサンブール、グルノーブル等の美術館に在り。

オーギユスタン・グラスミツク

花を主として描く。サロン、ドートンヌ會員たり。

オーギユスタン・アニコツト

和蘭に生る。巴里に定住すれども、常に和蘭風景を描く。何れの美術團體にも屬せず。

ドミニック・アングル

一七八〇――一八六七。寫實派の大家ダヴィッドの流れを汲み、肖像に、史實に材を取る。現代新古典主義の目標となれり。重なる作品はルーヴルに陳列しあり。

ヨンキンド

一八一九――一八九一。和蘭ロッテルダムに生る。最初和蘭風景を寫せしが、佛蘭西に來りて後は、イザベヱの門に入り、巴里風景を描けり。

ピエール・ラプラード

一八七五生。サロン、ドートンヌ會員。アンデパンダン出品。チュイルリーの委員。ブールデルの門に學びしが、稍沈める色彩、無雜作とさへ思はるゝ筆致を以て獨特の平靜なる畫布を作る。其製作リュクサンブール、グルノーブル兩畫廊に陳列せらる。

ジュール・ルフエーブル

一八三六――一九一二。歴史畫並に肖像畫を作る。典雅なる作風愛すべし。

ジャン・ポール・ローランス

一八三七――一九二一。著名なる歴史畫家。マンブル、ド、ランスチチュー。穩健質實なる作風を以て

鳴る。其主なる作品は巴里パンテオン、巴里オデオン座、巴里市廳等の天井畫、壁畫なり。其他ボルドー、アランソン、アーヴル等諸市の畫堂にも諸作在り。

ポール・アルベール・ローランス

巴里に生る。ジヤン・ポール・ローランスの息。アルチスト、フランセヱの會員。一九一〇年シユヴリヱ、ド、ロルドル、ド、ラ、レジオン、ドヌール章受領。其作風は裝飾的傾向を帶び、よく近代生活を描く。

アンリー・ルバスク

一八六六年シヤンピニエーに生る。サロンドートンヌ創立者の一人にして、チユイルリーサロンの委員となる。明快なる色彩を以て心地好き作品を發表す。現代大家として名高し。其の作リユクサンブール、グルノーブルの畫堂に在り。

アルベール・ルブール

印象派の老大家。ソシエテ、ナシヨナール會員。一九〇〇年萬國博覽會銀牌受領。風景の大作多し、其作はリユクサンブール、ルアンの諸畫堂に在り。

ルイ・ルグラン

一八六四年生。ソシエテ、ナシヨナール會員。チユイルリーサロンに加はる。版畫を得意とす。踊り子。母と子を扱へるものに佳作多し。

アンドレ・ロート

一八八五年生。サロン、ドートンヌ會員。チユイルリーサロンにも參加、立體派畫家。現代新進作家中の急進黨の一人にして近時其名高し。

エヅアール・マネヱ

巴里に生る。一八三二――一八八三。印象派大家中の一人にして、ベラスケス、ゴヤ等西班牙畫家の影響を受け、光と色の調和に重きを置きたり。

アンリー・シヤルヽ・マンギヤン

一八七四年巴里生。サロン、ドートンヌ會員、風景、人物、靜物、共に其派手なる作風を以て世に知らる。其の作リユクサンブール、グルノーブルの畫堂に在り。

ジヤン・マルシヤン

一八八三年巴里に生る。一九〇八年以降アンデパンダンのサロンに出品し、サロン、ドートンヌの會員。穩健なる新派の畫家、佛蘭西地方色の描出を特色とす。

アルベール・マルケー

一八七五年ボルドー市に生る。ギユスターヴ、モローの門より出で現在サロン、ドートンヌ會員たり。其洗練されたる作風は人々に推賞さる。現代に活躍せる中堅作家の一人なり。

ジヤクリーヌ・マルヴアル夫人

巴里に生る。サロン、ドートンヌ會員にして、其裝飾的なる派手な作風を以て名高く、現代一流の女流作家たり。チユイルリーのサロンにも參加、其作はリユクサンブール美術館に在り。

ジヤン・メツツアンジヱ

一八八三年生。サロン、ドートンヌ會員。アンデパンダン出品。初期に於ては後期印象派風を倣ひしも最近には立體派の傾向を帶び來れり。

ジヤン・フランソア・ミレー

一八一五年グレヴイルの寒村に孤々の聲を擧ぐ。勞働と宗教を命とする水飮百姓の一子として自ら時き收穫をなせり。青年時を巴里に苦學せしが後再び田園に歸り、バルビゾンに家を爲し耕作しつゝ製作を爲したり。一八七五年バルビゾンに於いて永眠。終生赤貧洗ふが如し。彼に於て初めて生活と藝術の貴き一致を見るを得。歿後其眞價世人の認むる所となり今や其作品は國寶の如き價値あり。近代繪畫の主座に置かるべき畫家たり。油繪、素描共に純朴にして、原始的たる田園風景、農夫、動物を描寫せり。

アメデヱ・モデイリアニ

一八八四——一九二〇。伊太利に生れ、巴里に客死す。アンデパンダン出品。裸體に肖像に、熱情的なる製作を公にせり。其作グルノーブル畫廊に陳列せらる。

モンチセリ

一八二四——一八八六。浪漫派大家にして、其手法は後日印象派の先驅となれり。アムステルダム、エヂンバラ、グラスゴー、ヘーグ諸市の畵堂に其名作在り。

ギユスターヴ・モロー

一八二六——一八九七。浪漫派の巨匠。象徴的なる其作貴ばる。主なる作品は、巴里のモロー美術館に集めらる。

アンリー・オツトマン

サロン、ドートンヌ會員。豊麗なる色彩を以て人物に風景に大作を發表す。其作リユクサンブール、ルアン、ナントの諸畵廊に在り。我國にも其名を傳へらる。

イポリツト・プチジヤン

新印象派に屬する作家。裸體、風景共に見る可き作あり。アンデパンダン及びサロン、ドートンヌへ出品す。

カミーユ・ピサロ

一八三〇——一九〇三。モネ、シスレヱ等と共に、印象派の大家たり。風景、主こして田園風物を描けり。明快なる色調、纖細なる筆觸まことに名品多し。其作は主として、ルーヴル、リユクサンブール、

ブカレスト等の諸畫堂に蒐集さる。

ピユビス・ド・シヤバンヌ

一八二四年リヨン市に生れ、一八九八年巴里にて死去。十九世紀に於ける最大の世界的畫家なり。ラテン民族獨特の上品、端正を以て、宗教的にして靜寂なる裝飾畫を壁面に描けり。巴里パンテオンの聖ジユヌヴイエヴは誰も知る傑作たり。其の作壁畫の外ルーヴル始め諸畫堂に陳列せらる。

ジヤン・フランソア・ラフアエリー

一八五〇年巴里に生る。現代の巴里郊外の風景、人物等を面白く描けり。エッチングにも見る可き物多し。一九〇〇年博覽會金牌。一方の大家として名ありしが一九二四年死去す。其の作リユクサンブール、リヨン、ナンシー、ナント、フイラデルフイア、クリスチヤニヤ等の畫堂に在り。

オーギユスト・ルノアール

一八四一年リモージユに生れ一九一九年物故せる印象派の大家。風景、人物、靜物共にその獨特の快き筆觸と濁なき色彩を以て完全に描きたり。就中裸體に傑作夥く、素描にも珍重すべき物頗る多し。近代美術史上特筆すべき巨匠なり。其の作は世界各國の美術館に在り。

オヂロン・ルドン

一八四〇――一九一六。象徴派の大家。稍奇怪に思はるゝ人物。花、蝶等を寫す。其作リユクサンブー

ル、プチパレー、グルノーブルの諸美術館に在り。

テオフイル・ロベール

一八八六年瑞西に生る。新古典派の新進作家。サロン、ドートンヌ會員。其構成的なる手法と、上品な色調を以て認めらる。チユイルリーのサロンに參加、昨年日本へ將來せられし大作は、久邇宮家御用品となれり。

サヴイエー・ルツセル

一八六七年生。新古典派作家。其穩健なる色調と神話的題材は巨匠コローの作風を思はしむ。サロン、ドートンヌ會員にして、一方に重きを爲す。其作はグルノーブル畵廊に陳列さる。

アンリー・ル・シダネール

一八六二年生る。カバネルの門に學ぶ。夢と詩を多分に持てる作風なり。現代大家の一人たり。

シスレー

一八三九——一八九九。ピサロ、モネエと並び稱せらるゝ印象派の巨匠なり。多くの印象派畵家等と同じく光りと色に重きを置き、一面に於て自己獨特の筆觸と調和を以て靜寂なる風景畵を製作したり。

ルシヤン・シモン

一八五四年巴里に生る。ブルターニユの風物を好んで描寫す。肖像も多く素朴なるブルターニユ人を描

く。現代大作家として名高し。

フリッツ・トーロー

一八四七――一九〇六。那威に生る。風景畫の大家なり。其作リュクサンブール、ルアン、ベルリン、クリスチャニア、コーペンハーゲン、ミュンヘン等の畫廊に陳列さる。

フェリクス・エリー・トーベン

一八八〇年生。新進作家。花卉、風景等美麗なる作多し。サロン、ドートンヌ會員たり。

ツウル・ズ ロートレック

一八六四年巴里に生る。一奇才として名高し。酒場、劇場の情緒を描ける名品尠からず。エッチングも亦愛玩さる。

フェリックス・ヴァロトン

一八六五年生。新古典主義の作家にして裸體、肖像等を多く描く。サロン、ドートンヌ創立者の一人なり。チュイルリーのサロンにも參加。其の作リュクサンブール美術館に在り。

ヴァン・ドンゲン

一八七七年和蘭デルフスハーフエンに生る。一九〇四年以降アンデパンダンのサロンに出品し、またサロン、ドートンヌの會員なり。曾て妖艶なる女人の蠱惑を寫しまた西班牙、モロッコ、ヴェニス等に異

邦的題材を探れり。今は頻りに巴里社交界の男女の肖像を書きて一般の喝采を博しつゝあり。

ヴアン・リツセルベルグ

一八六二年白耳義ガンに生る。一八九〇年より一九〇六年迄アンデパンダンサロンの出品者。スーラア等こ、新印象派の運動に加はり點描を續く。群像、浴女などのコムポジション多し。

ヴイクトル・ヴイニヨン

一八四七年生、一九〇九年死去。印象派の風景畫家。コローの門に學びセザンヌ、ピサローなどこ友人なり。其重なる作品はランスの美術館に陳列せらる。

フエリツクス・ジエム

一八二六――一九一一。浪漫的風景畫家にして、時に愛らしき小兒像を描く。プチパレヱの畫堂には其作品を集めたる別室あり。尙ルーヴル、リユクサンブール、ルアン、ロンドン、アムステルダム等の諸美術館にも其作在り。

彫　刻

ジヤン・バフイヱ

一八五一年生。アンデパンダン出品者。鄕土的情緖を主調としたる作を發表す。木彫、石彫、銅、みな見るべき作品あり。

バルトロメヱ

ソシエテ・ナショナール彫刻部の巨頭。詩的にして、瞑想的なる其作風を以て名あり。巴里のペール・ラ・シエーズの墓地、パンテオン等に在る群像は其傑作たり。

ジヨゼフ・ベルナール

新古典派とも云ふべき現代一流の彫刻家。サロン、ドートンヌ會員。シユバリエ、ド、ラ、レジヨン、ドヌール章保持。其作リユクサンブール、グルノーブル美術館に在り。

アントアーヌ・ブウルデル

現代佛蘭西彫刻界の巨頭。チユイルリーのサロンの創設者にして、其副會長たり。オフイシエ、ド、ラ、レジヨン、ドヌール章所持。其名作リユクサンブール、グルノーブル、ストツクホルム、ローマ等の諸美術館に陳列さる。

レンブラント・ビュガッテイ

一八八三――一九一六。伊太利の人。ソシエテ、ナショナール及びサロン、ドートンヌ會員。動物專門の彫刻家なり。

ジユール・ダルウ

一八三八――一九〇二。十九世紀末に於ける彫刻界の巨匠。ソシエテ、ナショナールの創立者。其主たる作品はプチパレエ、ルーヴル、リユクサンブール等の諸美術館に蒐集さる。

エドガー・ドガ

繪畫の部に既出。印象畫派の大家なると同時に、彫刻に於ても傑作あり。

ポー・ガルガロー

サロン、デ、チユイルリー出品の奇才。極端なる省略法と、珍奇なる表現法を以て、稍奇異と思はるゝ作を發表す。

シヤナ・オルロフ夫人

露西亞に生れたる閨秀作家。現時巴里に於て、其清新にして獨特の技巧を謳はれつゝあり。單純にして、而も省略されたる表現法を以て、力強き製作をなすはまことに非凡なり。

ジエーム・オテロ

新進作家。サロン、ドートンヌ會員。其作リユクサンブールに陳列さる。

フランソア・ポンポン

動物專門家。單純化せる技巧と、裝飾的傾向を以て愛すべき作品を發表す。サロン、ドートンヌ會員。チユイルリーのサロンへも出品す。

オーギユスト・ロダン

一八四〇——一九一七。近代の佛蘭西が產める最大の彫刻家にして、其名普く天下に知らる。其作は主として、巴里のミユゼエ、ロダンに集めらる。尙リユクサンブール、リヨン、コーペンハーゲン、ベルリン、ブリユクセル、ロンドン、ブカレスト、ジユネーヴ、ロツテルダム、ストツクホルム等の諸美術館にも其作陳列さる。カレエ、ナンシーには記念像あり。

大正拾四年八月廿八日印刷
大正拾四年九月二日發行

定價金壹圓

編輯兼發行人　小倉右一郎

東京市芝區兼房町十五番地
印刷人　一噌連

東京市本郷區湯島切通坂町二十番地
發行所　國民美術協會

(一噌印刷所)

國民美術協會發行